

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270102163		
法人名	医療法人白鷗会		
事業所名	まちだパークホーム		
所在地 (電話番号)	〒038-0058 青森県青森市羽白字野木和93番地1 (電話) 017-788-9300		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 10月 7日	評価確定日	平成 20年 11月 4日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まちだ内科・眼科クリニック、よこうち歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の運営者が医療法人であることを活かし、医療面に関しては入居者・家族ともに不安のないよう、密接な連携が図られている。特に看取りについては、運営者である医師が中心となって、全面的にバックアップする体制をとっており、17年の開設以来4名がホーム内で看取られている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>虐待対応マニュアルについては、独自のものが整備されており、また研修も行われており十分である。また災害対策については、夜間想定訓練の他非常呼集も行われており十分である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で行い、結果について話し合い、改善に向けて尽力している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営に関する意見を求める他、自己評価及び外部評価の結果と、結果に対する取り組み状況を報告し意見を求め、更なる改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族の面会は、入居者のほぼ全員について行われており、この面会時に入居者の状況を報告するとともに、運営等に関する意見・苦情を伺っている。この際、家族からは気兼ねなく直接意見が出されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りに参加したり、ホームで開催する花見会に地域住民を招いて交流を図っている。他、朗読のボランティアを招いたり、ヘルパー2級の実習生を受け入れたり地域貢献について前向きである。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設当初に職員全員で検討し、「自由・協力・温和」という理念を作りあげている。理念の見直しについて話し合ったことがあるが、結局当初の理念に収まった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はわかりやすく、実践しやすいものとなっており、毎朝申し送りで話しあうなど、職員は日々実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の祭りに参加したり、ホームで開催する花見会に地域住民を招いて交流を図っている。他、朗読のボランティアを招いたり、ヘルパー2級の実習生を受け入れたり地域貢献について前向きである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価作成は職員全員で行い、外部評価の結果についても全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営に関する意見を求める他、自己評価及び外部評価の結果と、結果に対する取り組み状況を報告し意見を求め、更なる改善に取り組んでいる。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の報告や運営推進会議を通しての連携のほか、入居者で身寄りのない方がいた場合には、将来の身元引受をお願いするなど密接な連携が見られる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加するほか、内部研修も行い、職員全員の理解を深め、入居者・家族へも情報提供を行っており、利用開始はいつでもできる状況にある。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての学習機会を設け、意図的な虐待のほか、無意識に虐待とならないよう、ケア方法や言葉遣いも注意するよう理解を促している。また発見した際の対応方法についてもマニュアルを整備し、全職員で理解している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には見学も行き、文書により十分な説明を行った上で、質問の有無を確認し、十分理解していただけるよう努めている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りのほか、面会があった際に詳しい状況を報告している。面会はほぼ全員の入居者に関して実績がある。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>以前の経験から「ご意見箱」の形骸化を認知しており、直接対話による意見聴取に努めており、また家族からは気兼ねなく直接意見が出されている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できるだけ無用の人事異動は避けることとしている。職員の都合による退職があった場合には、利用者・家族にも事前に情報提供を行い、理解が得られるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に外部研修に参加するほか、内部的には事業所内で月1回、法人内で月1回の計2回の定期研修を行い、職員の育成に努めている。外部研修は一般研修のほか認知症介護実践者研修とそのリーダー研修も積極的に参加している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	青森市内のグループホーム協会に加盟し、研修や情報交換に努めるほか、近隣同業者と事例検討会を開催している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が入居希望者宅を事前に訪問し、馴染みの関係を作った上で入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園の作業を共同で行ったり、料理を教えてもらったりして信頼関係の構築に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いてアセスメントを行うほか、家族からも情報収集して十分な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたってはできる限り本人から要望を聞き、家族からの意見も聞き取り作成している。また、職員からは日々の情報を収集し、計画にフィードバックさせている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しのほか、入居者の状況が変わった場合、日々サービスを提供している介護職員からの情報を契機に見直しを行っている。大きく変わる場合は、再アセスメントを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営者が医師であることを活かし、十分な医療連携ができており、ホームでの看取りを実現している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は運営者である医師が週1回の往診しているが、他科や本人・家族が希望する場合は他の医療機関が受診できるよう支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時において説明し、方針を決定している。17年の事業開始以来4名の方が当ホームで看取られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録の管理は厳重に行っている。居室の表札も入居者の希望に応じ、表示しない等の策を実施している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を第一に考え、日々の暮らしを支援している。外出の希望があった場合に、当該ホームの職員が手不足になる場合には別ユニットから職員を手配し、それができない場合には、入居者に説明し、別の日を設定し、納得していただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と職員は同じ場所で同じものを食し、準備や後片付けは可能な方には手伝ってもらっている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>原則入浴日は設定しているが、希望に沿わない場合は変更して対応している。順番や湯温、湯船につかる時間等も入居者の希望に添えるよう配慮している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>センター方式で得られた生活歴等を活かし、日々の作業の創造に努めている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者の希望に応じ外出を支援する他、希望のない方についても他の入居者の外出に同行していただき気分転換を図っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしない、という信念を全職員で共有し、地道に実践している。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>できる限りかぎは掛けないが、入居者の危険を考え必要と判断した場合は、家族の同意を得て施錠している。また、家族の了承が得られる場合は近隣に写真入で情報提供を行い、有事に備えることもある。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策の訓練の実施にあたっては、近所の方にも参加していただけるよう声かけをしている。訓練は、火災訓練、夜間の火災訓練、非常呼集を行っている。該当年度での実施はないが、地震時の避難訓練の実績もある。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は同一法人の栄養士が作成し、バランスのとれた食事となるよう配慮している。各入居者で、食事が低下した際には量を記録し、栄養バランスへの配慮を実践するほか、水分量は日々記録し罹患の予防に努めている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対応するマニュアルは全般的な種類が網羅されている。勉強会は流行のおそれがある時期に合わせて、適宜実施している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファや椅子のほか、畳の座敷も用意し、入居者の好みや気分に合わせて選択できるよう配慮されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内には各入居者が持ち込んだテーブルやたんすが置かれており、本人が心地よく生活できるよう配慮されている。</p>		

 は、重点項目。